



鹿児島県 児童クラブ連絡協議会

連絡先

〒899-4301 鹿児島県霧島市国分重久2105-1

TEL/FAX 0995-45-7800

http://m-jidouclub.com/krijidouren-index.htm



携帯サイトです。ブック
マークに登録を！

ニュース

No. 39

2014年7月25日

6月8日鹿屋市「リナシ
ティーかのや」で第8回
総会を開催しました。

広木克行さん 総会記念講演会に130名！ 子どもは「育ちなおし」の名人…子どもとの関わりの指標に 総会に、中西茂鹿屋市長が来ひんあいさつ 超党派学童保育推進議員連の野間健衆院議員も

第8回県連絡会の総会は、大隅地区での開催に24クラブ38名の参加をいただきました。

地元鹿屋市の中西市長が来ひんとして、子育て新制度に向けて学童保育を充実することの必要性和、鹿屋市でのとりくみに対する決意、県連活動への激励をいただきました。

総会では、新制度に向けて自治体間の格差が出ないようにすること、「子ども会議」に学童保育の現場の声が反映できるようにすること、ブロック研修会と地域連協との連携強化を確認しました。

午後からの広木先生の総会記念講演会は、前段に学童保育超党派議員連の野間健衆院議員が駆けつけ、県連に対する激励と国会での学童の充実に向けた決意のごあいさつをいただきました。

広木先生の講演では、「子どもの育ちのもつれ」を大人の目線で引っ張るのではなく、もつれのイメージとその背景を分析すると「ほどこき方が見えてくる」と。アイコンタクトと子どもに触れることの大切さ、育ちには順番がある（生活言語と学習言語）こと等々…相談活動からの実態に即した内容で、アツという間の2時間でした。

（参加者のアンケートは次ページ掲載しました。）

第39回全国学童保育指導員学校（2014年9月21日）

九州会場の申し込みは、鹿児島県連協を通じてお願いします！

開催要項と申込用紙
を同封しましたので、
必要事項をご記入の
上、県連事務局へ

●と き 2014年9月21日（日）午前10時30分～午後4時30分

●ところ 福岡県春日市・クローバープラザ

●日 程 10:00 10:30 12:30 13:30 16:30

受付 全体会 昼食 講座

●受講料 2000円（弁当代700円・必要な人のみ）

※全体会・講座等の詳細内容は、同封の「開催要項」をご覧ください。

【全国指導員学校・九州会場 申し込み方法】

今年から、福岡県連協の事務手続きを軽減するために、研修会参加者の申し込み手続きは、それぞれの県連協で行うことになりました。

◆鹿児島県からの参加者は、必要事項を記入の上、控えのコピーを県連協事務局へ郵送、またはFAXしてください。

1. 受講料（2000円）と弁当代（700円・必要な方）を下記郵便局の口座へ振り込む。

郵便局の口座番号 記号 17810

番号 29171871

口座名 鹿児島県児童クラブ連絡協議会

2. 振り込みの控えと参加申込書を郵送またはFAXする。

住所：〒899-4301 霧島市国分重久2105-1

青葉児童クラブ内

鹿児島県児童クラブ連絡協議会

TEL/FAX 0995-45-7800

県連を通して
の申込み期限

◆申し込み締め切り 2014年8月20日

県連協で一括集約（入金と申込書の確認後）をし、福岡県連協に申し込みします。

受講票は、指導員学校当日の9月21日会場受付（鹿児島県連協受付場所）にてお渡しします。その際、申込み控えコピーをお持ち下さい。（受講票は、領収書を兼ねます。）

※当日参加も可能ですが、ご希望の講座を受講できない場合があります。可能な限り、事前の申込み手続きをお願いします。



第39回 全国学童保育指導員学校
九州会場 全体会

●基調報告 全国学童保育連絡協議会

●全体講義

「子どもたちの歴史的変化と
指導視点の探求
—それでも子どもは未来志向—」

講師：村山 士郎
（大東文化大学）

【プロフィール】

1944年山形県東根市生まれ（父親は教育労働運動の先駆者・村山俊太郎氏）大東文化大学教授。日本作文の会副委員長。教育科学研究会常任委員。専門は教育社会学。
・「いじめ自殺子どもたちの叫び」（共著、大月書店）
・「いじめで遊ぶ子どもたち」（新日本出版社）多数

【鹿児島児童クラブ連絡会 第8回総会記念・広木克行講演会 アンケート】

- ・市町村名 鹿屋市（26） 霧島市（17） 薩摩川内市（6） 日置市（1） 始良市（1） 曾於市（1） 志布志市（3）
垂水市（1） 錦江町（2） 肝付町（2）
初めて参加した（27） 参加したことがある（32）
- ・指導員（42） 保護者（5） 設置者（5） その他（保育士3 その他5）

■記念講演（広木克行さんの講演） は、いかがでしたか？

- ・広木先生の元で学べる子どもたちはよいなあと思いました。
- ・とても分かりやすく共感できるお話で楽しかったです。いろんなお話を聞きたいと思いました。
- ・子どもにとって一番大切なことは体で表現する愛情だと、改めて考えさせられました。
- ・はじめて講演会に参加させていただきました。保育士にも通じることがたくさんあり、とても勉強になりました。子どもたちがたくさん遊ぶ時間を大切にしなければいけないと感じました。親ではないですが、子どもたちとの触れ合いを大事にしていきたいと思います。
- ・指導員として、子どもたちと関わっていくうえで道標を教えてくださいたい気がして、嬉しいでした。
- ・学童以外、0～6歳の子どものお話も聞きたかった。とても分かりやすく聞きやすく、楽しく勉強になりました。
- ・とても勉強になりました。‘困った子’をよく思っていましたので、困った気持ちやわかってあげないといけないと思いました。自分が困った親でした。
- ・とても良かったです。耳の痛いことも多かったですが、感動することがたくさんありました。隣で妻は泣いていました。
- ・子どもたちへの今までの接し方を振りかえさせられる講演だったと思います。子どもと接する時、今日の講演を思い出したいと思います。
- ・とても参考になる現実的な話で、すごく良かったです。
- ・自分自身の子育ては終わっていますが、とても参考になりました。
- ・約4年半ほど高校・特別支援学校の現場に勤めていました。今年4月より、縁があり学童で勤めていますが、初めて関わる年代の子どもたちのことを想像しながら話を聞くことができました。
- ・とてもよいお話がきけて、参加させていただいて、本当に良かったです。
- ・今後子どもたちと接する上で、活かそうなお話が聞けて、本当に良かったです。

- ・とても聞きやすく、自然と入ってきました。
- ・実体験に基づいたお話で、とてもわかりやすく有り難いでした。また聴きたいです。
- ・すばらしかったです。施設にいる子どもたち、何故かは「もつれ」であり、「ゆがみ」でないことを教えていただきました。指導したつもりでいる職員（私も含めて）。初心に戻り、子どもに向き合いたいです。
- ・最初にこの講演会の場所が鹿屋と聞いて迷いましたが、この講演を聴かせていただき、来て良かったと思いました。午後からの講演は眠くなってしまのですが、今回は最後まで集中して聴きました。
- ・初めて聞きましたが、少しでも悩みのある親がいても聞いてあげることが大事だと思いました。
- ・とても分かりやすく、楽しい講演でした。以前、別の研修会（学童保育の全国集会）でお話を拝聴させていただき、その時も感銘を受けたのですが、今回の講演でも本当にストレートに自分の中に入っていました。そして、学童の重要性を改めて感じました。子どもたちの育ちなおしに自分たちの力が役立てば、と強く思いました。子どもたちのシグナルに気づき、寄り添えるようになりたいと思いました。本当にありがとうございました。
- ・子どもたちが理解者を求めているということを感じ、「困った子」を「困っている子」として捉えることの大切さを感じました。広木先生の学童保育に対する熱意がひしひしと伝わってきました。
- ・自分のエピソードなども話していただき、とても分かりやすく、時々胸が熱くなる思いでした！！ 子どもたちの居場所となる学童づくりをしていきたいです。
- ・現場の反省がたくさんあり、今後、明日からの保育・学童クラブに生かしていきたいです。
- ・自身の子育てにもとても参考になる内容でした。
- ・講演、とてもすばらしかったです。
- ・すごく良かったです。

- ・勉強になりました。
- ・子どもとの触れ合い（スキンシップ）大切、「早く！早く！！」が口ぐせ！自分のことのように。今後、見直していきたいです。
- ・困っている子は、実は自分→実感しました。
- ・子どもたちを大人が一方向的に決めつけないこと。行動の示す意味を知ること。子どもと触れ合い、目を見て話すこと。仲間の中で育ち合うことなど。大事なことを教えていただきました。
- ・これまで聞いた教育論とは違い、違った角度から子どもを見直せるような内容であった。
- ・一言めで胸にぐざりとくるものがありました。私も手のかかる子どもが「ただいま！！」と帰ってくると、笑顔で「おかえり！！」と言いますが、（あ～帰ってきたか…）と思ってしまうことがあり、反省しました。
- ・もっともっと話を聞いていたかった。すごく聞きやすかった。大学の時に、このような先生に出会えていたら、大学時代、楽しく勉強できたのにな…と思う。声がすごく良い！ 人に伝えることが上手です！ 毎年、鹿児島に来てほしい。
- ・最初から最後まで、とても聞き入ってしまいました。会場は遠かったけど、来て良かったです。子どもの出すサインを見逃さず、「育ち」の手助けができればいいなと思いました。
- ・指導員として母親として、とても勉強になりました。私も点数主義でしたが、遊びがいかに大切かを知ることができました。
- ・私は1941年生まれですので、先生のお話の時代背景が良く理解できました。
- ・あっという間の2時間でした。まだまだ聞いてみたいと思える内容でした。「教育家族」「教教」…確かにそうだなと実感しています。今、接している子どもたちの「育ちなおし」のお手伝いができればと思いました。
- ・子どもは育ちなおしの名人。困った子→困っている子と捉えることで、これからの指導に少し余裕をもって接していけるような気がします。



〈テーマ〉子どもは「育ちなおし」の名人！ 子どもへ理解を深め、育ち合いの保育・教育をめざして

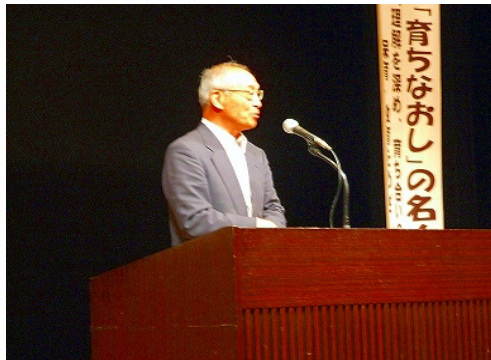
- ・自分の子育てを振り返り、子どもに対しての接し方、話し方について考え直してみました。育てなおしがこれからできるだろうか。やり直しができるだろうか、と思う講演でした。機会を与えられたことに感謝します。
- ・楽しく、なるほど…と思いながら、反省、後悔、今後のとりくみを考えました。
- ・とても興味深く聞くことができ、まだまだもっと聞きたかったです。
- ・とても興味深く、楽しくうかがいました。もっともっとお話をうかがいたいと思いました。
- ・「困った子だ」とか、その子が休みの時は、ホッとしている指導員たちですが、先生のお話を他の指導員にも伝えたいと思った。
- ・話の内容が、とても大切なことが多く、まるで講義を受けていたような学生時代を思い出したようです。
- ・実践、経験話を交えたお話が分かりやすく、集中して聞けました。育ちのもつれ、困っている子を受け止め、一人ひとりの子どもにアイコンタクト、スキンシップを心がけていこうと思いました。
- ・すいこまれるような、ステキなお話でした。
- ・すばらしい一言につきます。学童の現場で生かしていきたいと思います。人間としても…。

■■講演で印象に残ったことは、どんなことですか？

- ・育ちの順番があるとのこと。困っている子の困っていることを理解してあげること。
- ・困った子でなくて、困っている子だということが、とても印象に残りました。
- ・子どもが困っているのではなく、私たち大人が困っているのでは？ という話が強く印象に残っています。
- ・子どものシグナルについて、教えてもらったことで理解する方法が分かったような気がします。
- ・親の子どもへの抑圧はよくないのだなと、つくづく感じました。
- ・触れあうことの大切さを改めて感じました。自分が親になったら…と思いました。(ふれあいを大切にしたい)

- ・生活家族の実態が今の子どもたちの中に見えませんが、ただ宿題さえしているとほめられる、そして子どもも親も喜ぶ、評価され、それで親子関係が見える、今の子どもたちです。でも、一部の親はとにかく身体を動かし、遊ぶことが子どもの仕事！！と言って下さる方もいます。そんなとき、子どもとともにホッとします。
- ・よくあそび、よくたべて、よく学べ！！祖父(93歳)がよく言う言葉を同じように遊ぶことの大切さ、遊びの中で様々な発達に関係していること。
- ・子どもにあらわれる三つのシグナルの話は、今後の子ども理解の基盤になりそうです。
- ・生活家族と教育家族との子どもの育ちの差。
- ・もつれとゆがみは違う。育ち直しの場合。
- ・扁平足の話です。遊ぶこと、体を動かすことの大切さを痛感させられました。
- ・子どもとあれあひ、体をきたえることがどれだけ大事かということが、心に残った。
- ・育ちのもつれを自分はひっぱっていないかと、とても考えさせられました。優しく、ほぐしていけるような指導ができればいいなと思いました。
- ・「困っているのは大人側」という言葉が、印象的でした。もっと子ども主体でものごとを見なければならぬと反省しました。
- ・「育ちのもつれ」であること。「困っている子」であることこの理解。
- ・学童を利用して子どもが登校拒否で、学校に行けなくなりいつも心配して、今年小学校を卒業し中学校に入学しました。心のもつれ等をお聴きして、とても勉強になりました。
- ・集中力のない子は、背筋力が弱い(扁平足)ということに驚き、お話を聴いているうちに「なるほど」と納得しました。
- ・子どもたちの困り感・育ちのもつれがどのように表れるか、そのシグナルを学べたことはとてもいい勉強になりました。
- ・「育ちなおし」育つ力を持っている子どもたち。ゆがみをとらえるのではなく、もつれをほどける大人になりたいと思いました。

- ・心の育ちも大切だけど、体の育ち、きちんと背筋などをつけていくことが大事だということ、困っている子としてみてあげること、もつれと捉えてゆるめていく対応の大切さなど、とても勉強になりました。
- ・子どものシグナル(もつれ)の3点。すぐに、自分たちの児童クラブを利用している子どもは…？ 考えて(思い出して)みることでした。扁平足の子どもが多いのは、確かに多いです。うつの子が増えていること、ビックリです。
- ・先生が話された“耳かき”のお話がとってもあたたかく、自分自身が母にもらったあの心地よさを思い出して、なつかしい気持ちになりました。このされて嬉しかった、気持ちよかったことを子どもたちにも、色々な形で伝えていけたらと感じました。今日は、貴重なお話を聞くことができ、本当に良かったです。
- ・子どもへの触れ合い方。息子に口で怒ってばかりだったので、今日からは自分の体を動かし、息子に寄り添って注意するなら、目を見て！ やっていかうと思った。色々な話を聞いていて涙が出た。聞いていて、その子のことを想像したり、息子や自分のことを考えてみたりと。
- ・スキンシップ、心の交流のお話で、先生とお母様のお話を聞きながら、就職して今春東京へ行った息子のことを思い、そして県外で暮らす母のことを思い、思わず涙が出ました。
- ・子どもは困った子と捉えるのではなく、困っている子ととらえ、糸をゆくりとゆるめていく、引っ張るともつとからまるということに、とても感銘を受けました。
- ・子育ては、無免許運転であり、あやまちはある一教育という言葉。
- ・子どもに対して「ありがとう」の気持ちを伝えたいです。私の中で当たり前になっていました。また、肌と肌と触れあってみたいと思いました。
- ・「育ちなおし」という概念、とても新鮮でした。「糸のもつれ」の例え、とても分かりやすかったです。
- ・子どもは、育ちのなおしの話が大切なこと、地域のことなど細かく説明があり、心に残ることがたくさんありました。
- ・育ちの歪みともつれは違うということに、大きく納得いたしました。



子ども・子育て支援新制度についてのQ&A(よくある質問)

基準に関する省令についてのQ&Aを厚生労働省は出すと言っていますが、まだ出ていません。作業が遅れているとのこと。また、7月中に「放課後子ども総合プラン」についての局長通知(文部科学省・厚生労働省連名)が出される予定です。

子ども・子育て支援新制度に係る交付金などのお金の仕組みや流れは、まだ「子ども・子育て会議」等でもいっさい議論がされていません。恐らく、10月以降になると思われます。

8月末に出される来年度予算の概算要求は、子ども・子育て支援新制度のお金の仕組み等が決まらず、概算要求でも具体的な金額等はない模様です。

財源の検討が始まらないのは、消費税を10%に引き上げるかどうかの政府の判断が出ていないため、年末の政府判断とセットに来年度予算案が出され、そこで初めて子ども・子育て支援新制度の財源の仕組み等も明らかにされるということのようです。

7月9日に内閣府から子ども・子育て支援新制度についての「FAQ(よくある質問)」が出されましたので、学童保育関係部分を抜粋して紹介します。

自治体向けのFAQ(よくある質問)

【基準】

3 基準条例(放課後児童クラブ)

Q 放課後児童健全育成事業に係る基準条例において、小4から小6の児童については、児童館など放課後児童クラブ以外の居場所を確保することを前提に、放課後児童クラブの受け入れ対象児童の利用対象を小3までに限定することは可能ですか。

A 個々の放課後児童クラブに小6までの受け入れ義務を一律に課すものではありませんが、対象年齢を小6までとした児童福祉法改正の趣旨を踏まえれば、条例において利用対象を小3までに制限することは適当ではありません。

4 基準条例(放課後児童クラブ)

Q 放課後児童クラブにおける集団の規模について、「おおむね40人以下」と定められましたが、これについて経過措置を設けることは可能ですか。

A 支援の単位(児童の集団の規模)は参酌すべき基準であり、各市町村で省令基準を十分参酌した結果であれば、地域の実情に応じて、条例で異なる内容を定めていただくことも可能です。このため、省令基準を十分に参酌した結果、各市町村の判断で経過措置を設けることも可能ですが、経過措置期間内に省令基準に適合させる取組を進めるなど、放課後児童クラブの質の確保を図るという基準策定の趣旨を踏まえた対応が望まれます。

事業者向けのFAQ(よくある質問)(第3版)

【放課後児童クラブに関すること】

Q74) 子ども・子育て支援新制度では、放課後児童クラブについては、どのような内容の充実が図られるのですか。

新制度においては、放課後児童クラブの実施か所数についても量の拡充を進めていくこととしています。

また、質を確保する観点から、事業の設備及び運営について、国が定める基準を踏まえて市町村が条例で基準を定めることとなります。事業者におかれは、この条例の基準を遵守し、事業を行っていただくこととなります。

なお、新制度の施行に先立ち、平成26年度に実施している保育緊急確保事業では、保護者の利用意向を反映して開所時間の延長を行う放課後児童クラブに対して、追加的な財政支援を行うこととしています。

Q75) 産業競争力会議において、放課後児童クラブを約30万人分拡充するとの発表がありましたが、今後どのように進めていくのでしょうか。

放課後児童クラブに関しては、総理からの指示を踏まえ、「放課後子ども総合プラン」を策定し、厚生労働省と文部科学省が協力して総合的な放課後対策に取り組むこととしています。

いわゆる「小1の壁」を打破し、共働き家庭等の児童にとって安心・安全な居場所を確保するため、放課後児童クラブについて、新たに約30万人分を市町村計画の終期である平成31年度末までに整備することを目指します。

その際、次代を担う人材の育成の観点から、共働き家庭等の児童だけでなく、全ての児童が多様な体験・活動を行うことができるよう、学校の余裕教室等を徹底的に活用しつつ、可能な限り、放課後児童クラブと放課後子供教室を一体的に実施していきたいと考えています。

このため、全小中学校で放課後子供教室を実施できるよう整備を進め、一体型の放課後児童クラブ・放課後子供教室を平成31年度末までに約1万か所以上で実施することを目指します。

これらの目標の達成に向け、放課後子ども総合プランについては、次世代育成支援対策推進法に定める行動計画策定指針に位置付け、市町村において積極的に取り組んでいただくよう、国は、予算・運用の両面で後押ししていきたいと考えています。

なお、これまでの説明と同様、各市町村において、次世代育成支援対策推進法に定める市町村行動計画と子ども・子育て支援法に定める市町村子ども・子育て支援事業計画とを一体的に策定することは差し支えありません。

Q76) 小学校の余裕教室等の活用を進めるということは、放課後児童クラブ事業に民間事業者が参入しにくくなるのではないのでしょうか。

厚生労働省の調査(平成25年5月1日現在)では、学校の余裕教室等で事業を実施している市町村以外の運営主体(運営委員会、社会福祉法人他)は約半数という状況です。

最終的には市町村の判断となりますが、小学校の余裕教室等を活用する場合であっても民間事業者の参入を妨げるものではなく、地域の民間サービスを活用して多様なニーズに対応することは重要ですので、市町村とよく相談していただきたいと考えています。

Q77) 基準省令で都道府県が行うこととされている放課後児童支援員の認定研修について、研修科目等の内容はいつごろ提示されるのでしょうか。また、ガイドラインの通知はいつごろ発出されるのでしょうか。

基準省令において、放課後児童支援員は、都道府県知事が行う研修を修了したものでなければならないとされており、現在、当該研修の内容を検討中であり、夏頃を目途に取りまとめる予定です。

また、放課後児童クラブのガイドラインについては、今後年度内を目途に通知を改正する予定です。

なお、都道府県知事が行う認定研修については、基準省令の附則において5年間の経過措置が設けられています。

(以下は、3版において追加されたもの)

【放課後児童クラブに関すること】

Q82) 放課後児童クラブの対象年齢が小6まで引き上げられましたが、小6まで受け入れなければならないのでしょうか。

各市町村では、小4以上の放課後児童クラブ利用ニーズを踏まえた確保方策を講じる必要がありますが、個々の放課後児童クラブに一律に小6までの受け入れ義務を課すものではありません。



地域連協の活動紹介

おおすみ学童保育の会・鹿屋市学童保育連絡会 夏休み 児童スポーツ交流会の開催

- ◆日時 2014年8月22日(金)午前10時～午後1時
- ◆会場 鹿屋市「串良平和アリーナ」(TEL 0994-31-4500)
- ◆内容 ドッジボール交流会
- ◆参加費 各クラブ2000円 【問合せ】TEL 099-40-0963

「第7回さくら学童まつり」(6月21日開催/上床運動公園内溝辺体育館)に、13クラブ686名の児童・保護者・指導員等が参加。五色つな引き、風船わり、仲間あつめ、1万タリレー、じゃんけん列車等、みんなげんき一杯、楽しみました!

